

デジタル
の向こう側へ
あなたのペニスを叫ぶ
罪深い私の純粹

デジタルの向こう側へ

あなたのペニスを叫ぶ

罪深い私の純粹

今、あなたはどこにいるの？

見えない闇に向かって問いかける私。答えは返っては来ない、そして私自身そのことを知っている。

だけどこの声は届いていると信じている。

返答という明確な証拠がなくても、きっとあなたへ。

あなたは今、どこにいるの？

曖昧模糊で実体のないあやふやな世界に向けて、少し声高らかに叫んでみる。

私は・・・とっても罪深い女なの。

そう、それは**デジタル**。

私は電子を繋ぎ合わせたデジタルに向けてあなたを叫んでいる。あなたを探している。デジタルの向こう側にいるあなたを。

ミクロの更に10等分の10等分・・・延々と続けたような極小の世界。だけどそれは密に繋がり合い、大きな闇を作っている。

その闇は私たちを包み込み、私たち皆をその魔力から抜け出させなくさせ

ているの。

私は・・・とっても罪深い女なの。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

・・・・・・・・・・燦燦とこぼれる日の光。

「んっ！！??」

私は重い瞼を小さく痙攣させた後、ゆっくり開いた。

・・・・白い。

・・・・・・・・空だ。

私は真上を見て寝転んでいる。まっすぐ見上げるその限られた視界の中に、一羽の大きく羽を広げた鳥が通り過ぎていった。

白い空の明かりで私から見て鳥のお腹は陰になっている。

・・・・私はゆったりとした**自然の中**にいるようだ。

匂い、感じる空気・・・何だか全てが新しい。

すっかり私は目を覚まし、上半身を起こしてみた・・・。

「ここはどこ??」

迷子の子供みたいな頼りない声を発する。誰もいない空気中に向けて。だけどさほどの不安はない。

続いて私は、自分の意志ではない次の不思議な言葉を発した。

「あなたが帰ってくるのを待っているわ・・・」

どうしてだろう？

自分の喉から発せられたその言葉の意味が自分でも分からなかった。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です。